

賢治童話の輝きお届け

「黄いろのトマト」発売

通信機器開発・製造のネクス(花巻市、資本金9億498万円、秋山司社長、従業員57人)は、宮沢賢治の童話「黄いろのトマト」の冊子と、市内にある同社ビニールハウスで収穫した黄色のミニトマトをセットにした土産「賢治の黄いろのトマト」を発売した。同社は花巻を代表する土産へと育てたい考えで、注目が集まる。

土産は、全16冊の冊子、糖度を10度以上に子と、きり箱にぎっしり高めている。り詰まった高糖度のミニトマト20個で構成。賢治の童話と、同社の野菜を合わせた商品縦約17・0センチ、横約13センチ、幅約4・8センチ、弟・故清六さんの孫で本に見立てた筒形のある林風舎の宮沢和樹紙を抜くと姿を現す。代表取締役と相談し、品種は、黄色系で最も了解を得た。も甘いとされるチェリネクスは、情報通信一ゴルド。水の供給技術(ICT)を生かすを抑えてポット栽培した果菜類のハウス栽培

花巻の業者

培に参入。収穫を繰り返して生育データを返す。返して生育データを返す。

集中で、来秋にはハウスを渡してサーカスの内容。土産は、甘くス内の室温などをセンサーで感知し、冷暖房2人のきょうだいが、りそうだ。などを自動制御するシステムを発売する計画に輝くトマトを番人に今の時代に現れれば、渡すも、入れさせても最新の技術で農業をし

高糖度、粒ぞろい20個

作品冊子と土産セット



を引き継いだ」と思いをはせる。

価格は1800円(税込)。市内の林風舎や山猫軒、ネクスファームというオンラインショップなどで販売している。

ネクスが発売した土産「賢治の黄いろのトマト」。童話と、20個のミニトマトを楽しめる